

(様式第4号)

上田市庁舎改修・改築検討委員会 会議概要

1 審議会名	上田市庁舎改修・改築検討委員会
2 日時	平成29年1月23日 午後1時30分から午後3時00分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4 出席者	高木直樹会長、丸山正明副会長、小野将司委員、金井美奈子委員、沓掛由利子委員、小山陽三委員、不破泰委員、宮本智夫委員
5 市側出席者	小野塚財政部長、清水契約管財担当参事、柳原総務課長、久保田行政改革推進室長、田村建築課長、馬場契約管財課長、若林工事検査政策幹、小林庁舎管理係長、三井建築担当係長、渡辺公共施設マネジメント係長、宮原建築課担当幹、吾妻契約管財課主査、野田建築課主任、荒木建築課主任
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 4人
8 会議概要作成年月日	平成29年2月8日

協 議 事 項 等

1 開 会 (馬場契約管財課長)

2 報告事項

(1) 第5回検討委員会について

(2) 機能の追加記載について

- ・資料に沿い、12月16日(金)に開催した第5回検討委員会の会議概要及び前回会議で委員から出された意見の追加記載について馬場契約管財課長から報告
- ・委員からは特に意見なし

3 検討及び協議事項

(1) 市庁舎の集約について

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から市庁舎の集約について概要を説明
- ・資料のとおり了承された。

(2) 庁舎の規模について

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から庁舎の規模について概要を説明
- ・資料のとおり了承された。

(3) 駐車場・自転車駐輪場の規模と配置について

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から駐車場・自転車駐輪場の規模と配置について概要を説明
- ・資料のとおり了承された。

(4) 事業計画について

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から事業計画について概要を説明
- ・以下、協議

(会 長)・ 一般的な作り方のほかに PFI やリースというものもあるが、合併特例債の利用ができないことを考えると、基本的にはあまりそぐわないだろうという方向性は見ておこうということ。だからやらないと決めるわけではないということ。方向性としては、やはり直営になるのだろうということだとは思う。

- ・金額に関しても、そもそも、40億とか50億という段階からスタートしていたわけだが、現実問題として、規模としてはやはり少し大きくせざるを得なく、大きくすることによって金額が60億から74億ぐらいはかかってしまう。当然、大きくすれば費用はかかるとい

うこと。

- ・ 建物としては、鉄骨造はそうだろうというところで、RC（鉄筋コンクリート）でも作れないことはないし、SRC（鉄骨鉄筋コンクリート）という選択肢もあるかもしれないが、その辺は耐震工法との絡みでかなり決まってくる。

（委員）・ 合併特例債は平成 32 年度には工事が完成していなければ対象にならないのか。

- ・ この庁舎は昭和 42 年に竣工したわけだが、その時には文化財の発掘調査は行われなかったのか。もし行われていれば、またやらなくてはいけないのか。

（事務局）・ 合併特例債は、これから事業を進めていく上で非常に重要なポイントになるので、県にも確認をさせてもらっている。今のところ、平成 32 年度に（工事が）終わるものは認めてくれるということなので、その前年の然るべきときに着工をするような工期設定をしていかなければならないということにはなる。

- ・ 昭和 42 年に発掘調査をやったかどうかは今わからない。それはよく確認はしたいと思っている。法律の中身の変遷もあるので、その辺も確認しながら、工期に影響することもあるので、まずは、試掘はしてみないといけないということである。

（会長）・ （スケジュールは）かなりタイトなはずである。平成 32 年度には竣工していなければいけないし、非常に厳しいだろうとは思っている。

（委員）・ 最初は、耐震ということで始まった会議だと思う。「耐震をやっても現施設では相当金がかかるから、建て替えの方がいい」というところまではいいが、当初、建て替える場合には、だいたい 40 億から 50 億といわれて、これを見ると、40 億から見ると倍近い 74 億という金額になっている。今まで色々な意見が出て、色々入れていくとたぶんこうなってしまったのではないと思うが、市民サイドで考えると、金額的に「生産性のないものに何でこんなに金をかけるんだ」、「本当にそれでいいの」という感覚が出てくると思う。これは非常に難しいところだと思うが、74 億に跳ね上がってきたという、職員の中で検討した数字で、今まで出てきた色々な意見を入れていったらこうなってしまったということなのか、その辺の説明をお願いしたい。

- ・ 建てる方法とすれば、公共直営方式とか PFI、色々な形も考えられる。その辺のことは検討委員会としてどういう方向でどういう結論を出していくのかという基本的な問題に関わってくると思う。

（事務局）・ 今回、構想ということで、規模と事業費の関係が、これから委員の皆さんあるいは市民の皆さんの意見も聞かなければいけないという重要なポイントだと思っている。

- ・ 本日は、事業費として 60 億から 74 億程度という範囲の中で示させていただいた。74 億というのは、将来、市役所が集約をしたときには 13,000 m²程度が必要だろうということで、それを上限的に試算したのが 74 億だったということである。

- ・ （機能の）集約の仕方、本当にそれがベストかどうか、今後、具体的に検討をしていく必要があるかと思う。

- ・ 13,000 m²にしても、通常の国の基準よりは下回っているということもわかってもらえればということもあって、試算の段階での資料としては付けさせていただいたが、13,000 m²あれば、市役所の機能としてはある程度の機能が保たれるということをやってみたが、そうするというのではなく、10,000 m²というのも当然想定されるだろうということで、今回の基本構想は 10,000 m²から 13,000 m²ということにさせてもらえればということである。

- ・ 仮に 10,000 m²で、免震構造で建設すると、60 億程度というのが試算されてきたので、今後検討する状況によっては、当然下がる可能性もあるかもしれない。今回、（事業費を）いくらというところまではっきり示すのはなかなか難しいということで、幅を持たせて、「財政事情を考慮し可能な限りコストの節減にも努めていきます」という文も入れて、構想としてはまとめていければと考えたわけである。

（委員）・ 庁舎の改築ということと、財源の問題、色々なことを考えながら、今のままで大震災が来られて庁舎がつぶれたということになれば、人命にかかわる問題なので、なるべく早い方がいいが、「焼却場問題の方が先で、庁舎の方は後でもいいじゃないか」というような意見も

あり、色々な考え方の市民の人たちがいるが、そういうことも考えながら、我々委員とすれば、どれが一番良くて、どこで落ち着かせるのかということで、これが最終決定ではないが、検討委員会の責任として、一つの方向を出さなければいけないと思っている。

- (会 長)・ 改築で対処したときの問題点として、「地震等があったとき、防災のセンター等がまったく機能できず、上田市役所が何十億もかけたのに、いざとなったら自分たちの建物は守ったかもしれないが、周辺に対する情報発信が何もできなくなってしまうというわけにはいかない」ということで、そういうことをやろうとしたら結局「(庁舎を)新たに作らざるを得ない」というのがそもそもの議論だったわけである。
- ・ 当然、前と同じ規模で作ることでは防災センター等の問題をクリアできないこともあり、どうしても(規模を)増やさざるを得ない。
 - ・ 議論の中では、「あちこち行ってもらって、たらいまわしされるのは困るから、できるだけまとめましょう。でも、それをやって、(機能を)一か所に集めていくと、どんどん(規模が)大きくなってしまふから、できるだけ小さくしましょう」という両方の議論がこの中で行われてきた落としどころとして 10,000 m²から 13,000 m²である。
 - ・ (事業費が)いくらかかるかというと、免震という一番高い耐震工法をとったときで 60 億から 74 億。ひょっとしたら、この後、実際の工事、設計という話になってくるときには、もう少し下がる可能性がないわけではないということだろうと思う。
 - ・ 我々の事業説明責任としてそれでは不足で、「もっとこういうふうに」というものがあれば、それは書いた方がいい。第一回からずっと議事録を読んでいただいている分にはたぶんそういう誤解は無いだろうと思うが、第一回の(議事録)を読んでいきなり今日の(資料)を読まれると、「何だこれは」というふうになってしまう可能性もある。
 - ・ この委員会の議論がどうしてもこのようになってきたのか、「やむを得ずこっち(改築)へ来ている」、「合併特例債で国からお金が降ってくるから何でもやってしまえという方向で考えている」ということは決してない」ということは議事録に残しておいていただいて、ぜひ、市民の方にご理解いただければと思う。

(5) 上田市庁舎改修・改築基本構想素々案について

- ・ 資料に沿い馬場契約管財課長から上田市庁舎改修・改築基本構想素々案について概要を説明
- ・ 内容については持ち帰って確認いただき、修正、意見等について、後日、提出していただくよう依頼
- ・ 以下、協議

- (委 員)・ 「最初 40 億の改修で進めていたのに、どうして最高で 74 億の改築になったのか」というところを市民の方にしっかり理解していただかなければいけないだろうと思う。
- ・ これを読めば「大きな話は、こういうふうに進んでいったから、こうならざるを得なかった」ということが市民の方に理解していただけるかどうかという観点で見たところ、そのあたりのことが書かれているのが 13 ページだけである。耐震補強と改築の比較をして、あまり値段も変わらないというところで集約されているような気がして、その観点で市民がこれを読んだときに、そのことがうまく伝わるかどうかとても気になった。
 - ・ もう少し改修案から改築になった経緯、例えば、「改修すると今でも使いづらいところをもっと使いづらくなってしまふ」などを示した方がいい。インパクトのある写真もあった方がいい。
 - ・ 我々も、そこではもう少し丁寧な議論が行われてきていたと認識しているので、もう少し丁寧な記載があって、一番市民の皆さんが気になっているところがそこに集約されると思う。その観点でいくと、13 ページにある、「改築でも 44 億から 50 億」という説明が始まったのが、今回は「最高で 74 億」と、改築の中でも値段が増えているという背景も、もう少し丁寧に説明をする必要があると思う。

(会 長)・ たぶん、その通りだろうと思う。13 ページあたりの説明では、今の議論が抜けてしまっ

ている。この44億から50億というのはどういう意味なのかということをしっかりどこかに書いて、それに対して、今日まさに話をしていた関係と、「市庁舎を集約すると機能とサービスが向上するとか、最低必要な機能をきちんと付けるとか、そういったことをするとどうしても建物が面積的には2,000㎡程度は増えてしまう。これからの市役所の機能として必要不可欠なものであるから、そこが増えるのはやむを得ない」という議論があったうえで60億から74億という議論になっているということを示さないと、「どうしていきなり十数億円増えてしまうのだろう」というのがまるで見えない。

(委員)・この検討委員会は、資料がその場で配られて、そこで意見を言えといわれてもなかなかできないので、できれば一週間前あたりに資料を配布していただいて、事前に個人的な考え方がまとめられてからこの委員会で意見が出せるような環境作りというのも考えていただけるとありがたい。

(会長)・確かにもう少し早く、ここにいる委員さんが3日間読む時間があれば、10人の目で3日分のチェックが入れられる可能性があるということなので、「ぜひお願いします」でいいか。

(委員)・詳細な資料までは難しいと思うが、レジюме、項目だけでも先にいただくと、次回の委員会はこんなことを協議するというのがわかり、(意見が)整理できるのではないかと思うので、よろしくをお願いしたい。

(事務局)・紙ベースでやるか、インターネットで項目だけ送るといった方法もあるので、できるだけ努力はしてみたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

(会長)・この素々案に対する意見はいつまでに提出すればいいか。

(事務局)・このようなところをこういうふうに記載したほうがいいのか、このような表現を加えたほうがいいのかといったことがあれば、2月3日を目途に事務局へ届くようお願いしたい。

(会長)・この様式には別にこだわらなくてもいいと思うが、この様式の中に書いてあるのと同じようにして意見を送っていただければ、次の会議に反映されていくのではないかと思う。

協議結果

- ・庁舎改築における方向性については概ね了承された。
- ・基本構想の記載内容において、事業費の見込みが当初より増えていることについて、今までの議論の経緯についてももう少し詳細な記載をする。
- ・基本構想の素々案についての修正、意見等があれば、2月3日までに事務局へ提出する。出された意見については基本構想に反映させていく。
- ・検討委員会の資料については事前に委員に送れるよう努めることとする。

(6) その他

次回会議の日程

- ・第7回検討委員会は2月13日(月)の午後の開催で調整する。